



種もみ消毒と催芽

農業経営支援課 渡辺 彰人

水稻苗の種子準備の時期です。いもち病やばか苗病などの種子伝染病害は、未然に防ぐことが大事です。慣れている作業ですが、手順をもう一度確認し、良い苗を作りましょう。

資材消毒

病原菌の繁殖を防ぐため、育苗箱等使用する資材は必ず消毒をしましょう。
ケミクロンGの1000倍液に10分間浸ける、または500倍液に一瞬浸けるかジョウロで散布した後、日光に充分に当て乾燥させます。

塩水選

種子を食塩水または硫酸水りゅうあんすいにつけると、稔実ねんじつが悪いもみは浮き、充実したもみは沈みます。素早くかき混ぜた後、浮いたもみやゴミを取り除きます。**購入した種もみも実施しましょう。**塩水選後は、必ず流水でよく洗ってください。

種もみ消毒（田植え1カ月前くらい）

薬剤侵透効果を高めるため、目の粗い袋に7分目程詰めした後、**テクリードCフロアブル**（200倍）に**スミチオン乳剤**（1000倍）を加え、種子消毒を行います。種もみ1kg当たり2ℓの薬液に入れ、袋をよくゆすり24時間浸けた後、5〜24時間ほど自然乾燥させます。

塩水選の濃度（水10ℓあたり）

種別	うるち	もち
比重	1.10	1.06
並塩	1.55kg	0.90kg
硫酸	1.98kg	1.10kg

浸種

水温は10〜15℃とし、水温積算温度（水温×日数）で100〜120℃を目安にします。酸素補給のため1〜2日おきに水を交換し、ときどき種もみをかくはんして水温や酸素吸収を均一化しましょう。

催芽

浸種が終わったら水を入れ替えて催芽します。もみは、水温28〜30℃で15〜20時間加温して、ハト胸のよくな状態になると、白い芽が1ミリ程度出てきます。